



今回から新たなる挑戦が始まった。3つ目の CCIE に挑戦を開始することになった。今回挑戦するのは CCIE Voice という資格である。これを取れば CCIE トリプルホルダーということになるが、周りが思うほど私は資格そのものにこだわっていない。私が資格に挑戦するには、人に負けたくないという気持ちからである。たとえば音声に関する技術では、私を超える人は無数に存在する。というよりもむしろ私は最後部付近に位置している。

私はそれらの人々に少しでも近づき、できれば抜き去りたいのである。漠然と勉強するのは目的意識が薄れそうになるので、手っ取り早い方法として、資格に挑戦するという手段を取っている。

CCIE という資格は「学科」と「実技」に分かれている。私はゴールデンウィーク中の猛勉強により、すでに学科試験には合格しているのである。

会社からは「早く取れ」と言われているので、できるだけ早く実技を受けることにした。ところが CCIE Voice の実技試験は全世界でもサンノゼ（シスコ本社）とベルギーでしかやっていない。できる限りサンノゼに行きたいのであるが、あいにくサンノゼの予約が混みあっており、5ヶ月さきの予約しか取ることができず、仕方なく遠路はるばるベルギーに行くことにした。

実は、ベルギー行きはかなり不安である。大体、言語は何なんだよ。英語じゃないの？ うーん、フランス語？ というレベルで、全然ベルギーのことをわかっていない。

しかも試験が行われるシスコベルギーのある Diegem という町は「地球の歩き方」などのガイド誌などには載っていない。情報網を駆使して Diegem について調べるが情報が集まらない。ホテルは Diegem に取っているが、どうやってホテルまで行ったらいいのかわからない状況である。実は出発の直前まで

行きかたがわからず、私は焦りまくっていた。最後に、紀伊国屋書店に電話して

「ベルギー全土の地図がある」

と確認して買いに行った。

そしてついに Diegem という町の位置を確認できたのである。

ふう。これで何とか試験を受けることはできそうである。

< 6月29日(火) >

12:45 成田発で、アムステルダム経由でベルギーに出発である。アムステルダムからは JAL の運行する無料バスでベルギーまで運んでくれることになっている。

空港には 11:00 過ぎには着きたいところである。乗り合いタクシーを予約している。8:30 に予定通り迎えに来て、無事に成田到着。前回の乗り合いタクシーで、寝ぼけてとんでもない失態をしそうになった私であるが、今回はしっかりと起きて勉強しながら行くことができた。



スムーズに搭乗手続きを済ませたが、帰りのベルギーからアムステルダムへの移動バスの時間について確認をしたところ

「ヒルトンホテル発が 14:50 でございます」

とのことであったが、あとでこれがとんでもない事態を引き起こしそうになるのである。

また前回の JAL の不手際について現場のマネージャが謝ってくれた。

まあ、その件についてはもう気にしていないので。。。

JAL の正式回答として

「あくまで約款では A 地点から B 地点までお客様を運ぶということのみ規定されております。それ以外のサービスについては、ただ謝るという以外に方法がございません。グローバルクラブは有料の会費を頂いておりますが、サービス内容を約款で保障しておりません。残念ながら約款で規定された内容を履行できなかった場合のみ、運賃の返却などの措置をとらせて頂きます。ヒョウドウ様が、ANA グループへのステータスの移行を検討していらっしゃるとのことですが、私どもとしては止める理由もございません。どうぞご勝手にとしか、申し上げられません。」

ということなので、皆さんも参考にしてください。

他に特に何もすることがないので、ラウンジに移動して勉強することにした。今回から新しい PC を支給された私は、PC にデフォルトで組み込まれている無線 LAN をラウンジで利用できるのである。これは快適である。

快適に勉強をしていると、程なくして出発の時間である。

< 機内にて >

さて、搭乗開始。今回は往路はビジネスクラスである。いつ乗ってもビジネスクラスは楽チンである。相変わらず機内食も素晴らしい。私はアイスクリームなどが大好きなのであるが、デザートで持ってきてもらえる。



私は洋食と和食の選択では、余程の事が無い限り洋食を選ぶ。和食は小皿がたくさんあるイメージ（ビジネスクラスでは、である）で、あまり腹に貯まらない感じがするのである。ビジネスクラスの場合は洋食でも、肉と魚が選べる。今回は肉を頂くことにする。

レストランで肉（ステーキ）を注文すると焼き具合を聞かれるのは皆さんも承知の通りである。ある人がお店で焼き具合を聞かれてどう答えていいのかわからず

「一生懸命に焼いてください」

と言っただけ。ウェイトレスさんも、料理を運んできた際に

「シェフが一生懸命に焼きました」

と、返したとのこと。このウェイトレスは一流のセンスの持ち主だろう。

料理ネタでは、やはり長島茂雄を語らないではいられないだろう。ある時、長島はソバ屋に入り、そばに関するウンチクを語りだした。ひと通り語ったあとで注文したのはカツどんだったとのこと。

長島は、まだ長男である一茂がまだ小さかったころに、あのサッカー界のカリスマであるペレと対談したことがあった。長島は

「いやあ、一茂がサッカーに夢中で毎日のようにサッカーの練習をやってますよ」

と語ったのであるがそれに感激したペレは長島にユニフォームをプレゼントしたのである。が、プレゼントを受け取った直後から突如、

「いやあ、一茂は少年野球に夢中で。。。」

と語りだしてペレを唖然とさせてことがある。一茂に確認を取ったところ、

「僕はサッカーをやったことはありません」

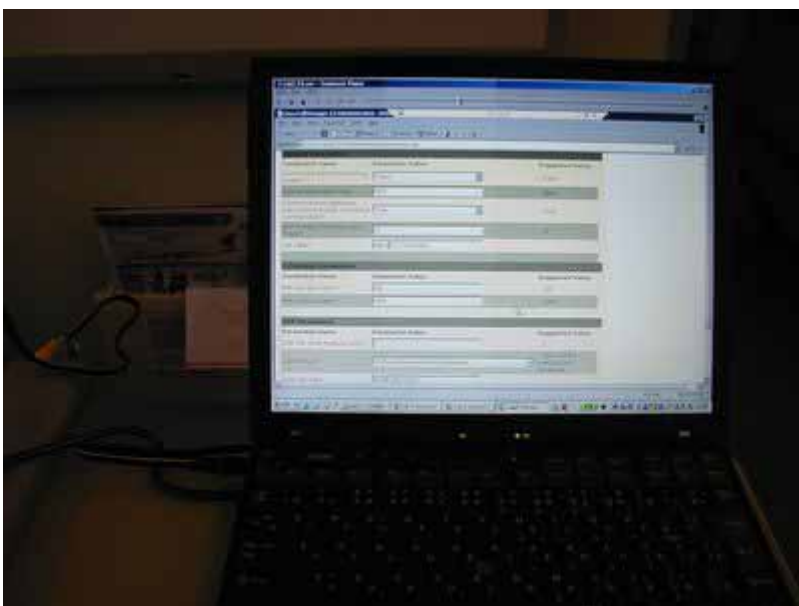
とのこと。天然にも程があるぞ。

また、皆さんは JAL 監修の旅行ガイドはご存知だろうか。書店でも販売しているもので確か 700 円くらいする。地球の歩き方ほど詳しくはないが要点はきちんと押さえてあり、とても薄いため持ち歩きにも重宝するものだ。実はビジネスクラスでは、これがワゴンカートに乗って「自由におとり下さい」と出てくる。ヨーロッパ全土で 8 冊くらいに分かれているであろうか。私は 8 冊すべてをもらってしまった。薄い本ではあるが、カバンがパンパンになってしまった。

機内でも快適に過ごし、勉強もかなりはかどった。勉強道具の殆どを PC に入れているので勉強には必ず PC が必要である。懸命なる読者の皆さんであれば、何か気づく点があるだろう。そう、ノート PC のバッテリーというのはそんなに長時間の使用に耐えられるわけではない。せいぜい 2 ~ 3 時間程度である。が、JAL のビジネスクラスでは、PC 用のバッテリーを貸してもらえる。電流値とコネクタ形状の組み合わせを選んでお願いすれば OK である。



約13時間のフライトでアムステルダムに到着である。面白い映画をやっていなかったこともあり、勉強を半分の時間くらい費やして、あとはほとんど寝ていた。



< 6月29日(火) >

アムステルダム到着。西に向かうフライトなのでまだ同じ日である。ちょっと時差ボケ気味である。

今回は「ドコモスカイウォーカー」を申し込み、携帯電話を持ってきている。このサービスのすばらしいところは、日本の私の携帯の番号に電話をかければそのまま転送されて、海外の携帯にかかるのである。課金は日本で使っている携帯にかかるようになっていて、その点でも便利である。早速使用できることを確認する。



だが、携帯を持ってきていることを会社には伝えていない。しかもいつもの番号でかかることが知れたら一大事である。

アムステルダムからベルギーへは JAL 運行のバスで移動する。飛行機から降りたところで、まじめそうな外人が「Mr.HYODO ……」と書いた紙を持って立っていた。さすが JAL である。こういう配慮には抜けない。

そのまま実に簡単な入国手続きを済ませ、バスに案内される。入国手続きは本当に簡単なものである。職員同士でバカ話（笑いながらなので、きっとバカ話だろう）をしながら入国の手続きをしている有様である。



ベルギーまで連れていってくれるバスは大型のものではなく、ちょっと小さなマイクロバス風情である。

観光客のほとんどがオランダで降りることが、このバスを見てもよくわかる。

ベルギーまでは約3時間強の道のりである。高速道路をひた走り、ブリュッセルのヒルトンホテルに着いた時には、夜の9時になっていた。さあ、ここから Diegem まで移動しなければ。私は当然のようにタクシーを選択。だが、運転手が滞在予定のホテルを知らない。しかも運転手は英語を全然しゃべらない。

やべえ。こりゃ、ホテルにどうやって行けばいいんだ？

そこで、紀伊国屋で買った地図を取り出し、

「ここ、ここだよ。この駅だから、ここに行って。ホテルは駅の目の前だから」

と、とりあえず英語で説明すると、なんだかわかってくれたみたいなので、まあ大丈夫だろう。

約20分ほどでホテル到着。領収書も英語で説明して、奇跡的に分かってもらったので、経費の清算面でも安心である。

チェックインするが、さすがにフロントの人は英語がしゃべれるようである。が、フランス語なのか英語なのかさっぱりわからんよ。発音がフランス語だもん。苦手だった英会話も、それなりにお金をつぎ込んで勉強したので最近ホテルのチェックイン程度は苦にならなくなってきた。その自信が木っ端微塵に砕け散る思いである。まあ、それでも何とか部屋までたどり着いた。





普通のビジネスホテル程度である。シドニーでの宿泊は滞在型のホテルだったので、いわゆるアパートメント型であったが、今回は電子レンジやコンロがあつたりしないと分かっているので、伝統の「さとうのご飯」は持ち込んでいない。しかし、いつも飲んでいる伊藤園のそば茶は持ち込んだ。



ところで、同僚のスーパー営業であるカセダさんから指摘を受けている。「さとうのご飯」ではなく「サトウのご飯」であると。ああ、だから佐藤食品さんからスポンサーの話が来なかったのかと納得した。

すぐに荷物を取り出して、試験までの戦う体制を整えていく。インターネットは無線アクセスである。フロントで24時間もしくは"2時間のカードを購入し、ID,パスワードを入力し使用できるようになる。まったく快適である。ソフトフォンも快適に動作するので調子に乗ってVPN経由で会社に内線電話をかけたりした。



コンセントの形状は変な形である。事前に調べてきているので特に問題無し。



私は海外でひとりでレストランなんかに入るのは苦手である。ホテルにもレストランがあるが、ひとりで行くのは気が進まないで空腹を我慢することにした。

時差は7時間。長時間のフライトもあり、体は大変きつい。早く寝ることにする。

< 6月30日(水) >

実は今日は何も予定がない。体力の回復に当てるために余裕を取っているのである。しかし、十分に睡眠を取ったこともあり、体力の回復を確信した私は、現地での会話に慣れておくために町に出ることにした。試験中はプロクタ(試験管)に話しかける必要があり、その際に不利にならないようにという配慮である。

ちなみに朝食は食べていない。ひとりで行きたくないからである。
空腹を我慢する。

外はとても寒い。夏だからと思って半そでで外出した私は上着を取りに部屋に戻る有様である。日本の
11月くらいの感じだと言えいいだろうか。

Diegem 駅からブリュッセルセントラル駅に向かうことにする。ホテルは駅の目の前であるが、周囲数
キロにわたって何も無い殺風景なところである。新興工業団地みたいな場所なので仕方ないか。ファース
トフード系の店もない。とにかくホテルと企業以外は何かない。



Diegem 駅は無人駅である。元々、ベルギーでは改札という仕組みがない。切符を売り場で購入し、あ
とは乗るだけである。検札に来るのはJRと同様である。



セントラルに到着。どこに行こうかなあ、、、と電光掲示板を見てブリュージュに向かうことにする。水の都と言われている町である。電車で一時間で到着。



地球の歩きからなどには、ブリュージュの案内もあり、それに従って観光ボートなどに乗ってみる。が、案内は完全なフランス語でありさっぱりわからない。まあ、私は乗り物が好きなので、乗っているだけでも嬉しいものである。



なお、観光客の中に日本人はほとんどいない。2組くらい見たらどうか。その程度である。お互いに日本人だとわかると妙に懐かしい気持ちになって、何か話しかけようという衝動に駆られる時がある。が、私はそのような情に流されない人間なのである。というのはうそで、本当は寂しくてたまらないので話しかけたくてウズウズしているのである。



ひと通り町を歩き回って、帰ることにする。明日は試験である。勉強しないと。一回目なので合格は難しいだろうが、問題を覚えて帰るだけでも意味がある。頑張るぞ。

また、集合場所がわからないと焦ってしまうので、今日のうちに確認しておこうとシスコに行ってみることにする。ホテルからは歩いて3分くらい。あちこちにたらい回しにされたが、無事に集合場所を確認できた。

< 7月1日(木) >

いよいよ試験日。朝の4時から起きて最終チェックをする。集合時間はなんと7時45分。早いなあ。何事も先手必勝なので30分前には集合場所に向かう。



今日も大変寒い。ベルギーには世界各地から受験者が集まって来る。彼らも天候の事がよくわからないのだろう。半そでのヤツもいれば皮のコートを着たヤツもいる。あまりに極端である。

少し遅れてプロクタが登場し会場に案内される。受験者は15名程度。ちなみに CCIE Voice の受験は私ひとりである。プロクタの名前はエリック。世界各地からの受験者がいるということを配慮してのことだろうと思うが、諸注意などは全て英語であった。エリックの英語は聞き取りやすく助かった。CCIE ポリシーとして

「試験は全て英語で行われる」

と決まっているので、そういう意味でもフェアな扱いだろう。日本で受験しても、試験内容自体はもちろん英語である。但し日本ではプロクタの説明は日本語で行っているらしい。

なお、辞書の持ち込みは可能である。学科試験には持ち込みが許されていないのだが、ラボ試験では持ち込みができる。滅多な事では辞書を使わないが、例えば「偶数」「奇数」とかそういう英単語はなかなか直感だけではわからないのでたまに使用するのである。もちろん、怪しい書き込みなどがないかどうか、事前にプロクタに確認してもらって持ち込めるのである。

長島茂雄が大学時代（立教）に、友人が英和辞典を持っているのを見て「へー、こんな便利なものがあったのかー」と言ったとのこと。一芸に秀でていれば大学も入学できるのである。

そう言えば立教大学時代のエピソードであるが、英語の先生が「I live in Tokyo.」の過去形は？」と質問したときに、「I live in Edo（江戸）」と答えた過去もあるらしい。

試験開始。いつものように試験内容については触れることができない。大変難しい内容である、とだけ言っておこう。あっという間に昼になった。

昼食は喫煙ルームみたいなところにサンドイッチが適当においてあってそれを食べ、ということである。今までの中で最低の扱いである。が、試験の事で頭がいっぱいなので元々昼食を楽しむ余裕はない。すぐに午後がスタートする。設問の意味もわからない箇所も多く苦戦する。あっという間に8時間経過。プロクタに挨拶をして、すぐにホテルに戻る。

試験は完敗である。ぐうの音も出ないという感じである。まあはじめての受験であるし、こんなものだろう。会社には悪いが、一回目から合格できるほど CCIE は甘くない。特に CCIE Voice に関しては情報が全然無いので、そういう点での数度の受験が必要になるだろう。そしてそれをベースに死ぬほど勉強して、やっと神が降りてくると思っている。

ホテルでは設問の内容をすぐにまとめるというのが私のやり方である。夜遅くまでやっていたが、さすがに空腹感が募ってくる。だってこっちに来てからカロリーメイトとシスコで食べたサンドウィッチだ

けなんだから。さすがに明日は朝食を食べよう。

< 7月2日(金) >

実は今日も休みなのである。むちゃくちゃ腹が減っているのでホテルのレストランに行くことにする。実はメニューがよく読めない。が、ビュッフェメニューがあることがわかったので安心した。内容は特に日本のホテルのビュッフェなどと変わりはない。とりあえず腹いっぱい食べることにする。

さて、どこに行こうかなあと思うが、とりあえずブリュッセルセントラルに行ってみることにする。駅の電光掲示板を見ているとアントワープ行きの列車があるみたいなので行ってみることにした。ランダースの犬で有名なアントワープである。

約40分で到着。アントワープの駅は非常に趣がある建物である。天井が高くしかも広々としている。歴史ある雰囲気にも包まれている。



ガイド誌などを読むとノートルダム大聖堂があるみたいである。名前くらいは知っているので行ってみよう。



歩いて15分ほどかかるが、大きなデパートなどがあり大都市である。ノートルダム大聖堂までマクドナルドが3店もあった。少なくともブリュッセル市街ではマクドナルドは見かけなかった。

相変わらず町並みは大変美しい。建物だけを見ているだけでも飽きないくらいである。



ノートルダム大聖堂に到着。入場料を払って中に入ることにする。私は正直、衝撃を受けた。欧米人のキリストに対する深い信仰心というか、言葉にはうまくできないが感銘を受けた。「交通の神」である私がそれくらいの衝撃を受けるくらいなので、どれほどのものかお分かり頂けると思う。



ルーベンスの絵が掲げてある。言わずと知れた、フランダースの犬のネロとパトラッシュで有名なルーベンスの「キリストの降架」である。絶命したキリストを十字架ごと下に降ろそうとしている絵である。



当時、この絵はお金を払った者しか観ることができず、貧しかったネロは観ることができなかった。あるクリスマスイブの夜、大聖堂に忍び込んだネロはルーベンスの絵の前に行くが、暗くて何も見えない。そこに奇跡的に月の光が差し込み、キリストの顔が映し出されるのである。そしてネロは真の友達であるパトラッシュとともに死に、翌日の朝に発見されるのである。泣ける話だ。

という話は偶然にも同じタイミングで入ってきた日本人の観光グループにぴったりと張り付いて聞き込んだ話である。私はフランダースの犬を見たことがない。

内部を飾るステンドグラスも大変美しい。



すっかり感激した私であるが、いつまでいても仕方ないので町をブラブラと歩いて、ホテルに戻ることにする。明日は帰国日である。荷物をまとめなければ。

< 7月2日(金) >

ブリュッセル市内のヒルトンホテルに 14:50 分のバス到着の予定である。中途半端な時間なので、ブリュッセルの市街地を少し歩いて見ることとする。

セントラル駅のロッカーにスーツケースを預けて、グランプラスに向かう。このロッカー室が暗い雰囲気、オヤジ狩りにでも遭いそうな雰囲気である。



グランプラスは何処の誰が言ったか忘れたが「世界一美しい広場」と言われる場所である。まあ宣伝用の話だろうとなめていた私は、ノートルダム大聖堂の時のように衝撃を受けてしまった。美しい。この広場は確かに美しい。デジカメ画像で伝えられるであろうか。距離感がなくなるほど、周りの建物の圧倒的な存在感が迫ってくる。結婚式なども行われている。日本の古い寺院も素晴らしいとは思いますが、違う次元の素晴らしさを感じる事ができる。



すぐ近くに小便小僧の元祖があるので見に行く。と、小便小僧の周辺は小僧で儲けようとする土産物屋がたくさんある。少し興ざめだなあ。



また、近くにビール博物館があるので入ってみる。ここは大失敗である。観る内容に乏しく、内部はとても狭い。一緒に入った観光客が10人ほどいたが、みんな博物館の内部を見学しているフリをしながら脱出ルートを探っていた。私もこんなところ、早く逃げ出さないと、と思うが出口がわからない。なので入り口に逆に進んでそこから逃げ出した。危ない、危ない。こんなところに長時間監禁されたらたまらない。

そうこうしているうちに昼過ぎになったのでバスの乗り場、というか集合場所であるヒルトンホテルに向かうことにする。スーツケースを抱えているので歩いては行けず、タクシーに乗る。英語が通じないが

「えーっと、ワートルロー通りに面したヒルトンホテルなんすけど。。」

というギリギリわかってもらえた。

市内で走る車を観察してみると日本車はほとんど走っていない。ルノーやプジョーが多い。ベンツも多いなあ。と思っていると、ヒルトンホテルの前に、日本で私が乗っているランドクルーザーが駐車していた。何だかとても懐かしい。



バスの到着まで一時間半ほどあるので、ホテルのバーでお茶をすることに。F1 雑誌などを読みながら時間つぶしをする。バスは 14:50 だと JAL に聞いているが、14:30 くらいになって、ちょっと早く待っておこうかな、と思って表に出てみると、バスが来ている。

「アレ？ 早いなあ」

と思いながら、運転手さんに

「何時に出発するの？」

と聞くと

「Now! Now! 今すぐ出るから早く乗りなさい！」

と言っている。やべえ！ 置いていかれるところだった。運転手さんによくよく聞いてみると 14:30 の出発ということである。JAL の野郎！
またやらかしやがって！

何とか乗り込んで無事出発。約 3 時間でアムステルダムに到着。特にすることもないのですぐにチェックインする。が、JAL の野郎がまたやらかしてくれる。カウンターのおねえさんは何と

「あなたにはシートのブッキングがありません」

と言いやがった。そんなこと無いだろ！ と突っ込むと

「心配要らない。シートの空きはある」

と言うが、そういう問題ではない。私は事前に自分の座りたいシートをリクエストしているので、必ずシートのブッキングがあるはずである。もういいから、日本に帰って全部文句を言ってやるよ。

ラウンジに向かうが、このラウンジはダイヤルアップのポートも無ければ無線 LAN のアクセスポイントも無い。がっくし。何もできないよ。仕方ないから新聞なんぞを読んで時間をつぶす。

帰りのフライトはエコノミーである。帰りは少し時間が短く 1 2 時間程のフライトである。疲れるが、帰りはどうでも良いのでエコノミーなのである。事前リクエストの席では無かったのであまり良い席をもらえなかった私であるが、キャビンアテンダントのおねえさんが、すかさず私の隣の女性を他に移動させた。あれれ？ と思っていると

「グローバルの兵頭様のお隣を空けさせて頂きました」

とのこと。たくさん乗っていると、こういうことがあるので嬉しいな。

次回の受験は約 3 ヶ月後に設定するつもりだ。二回目で合格できるのかどうか全くわからない。何回受験することになるのか、皆目見当がつかないが、絶対にこの資格を取ってやる。オレは負けない。